

新設駅前広場の利活用に関する研究

日大生産工(院) ○小田部 匠
日大生産工 永村 景子

1. はじめに

近年、地方都市での少子高齢化や人口減少が深刻化し、地域コミュニティの維持が困難となっている中で、公共空間整備が重要視されている。特に、主要鉄道駅前広場は、交通結節点としての機能に加え、地域住民の交流や活動の拠点となる場としての役割が期待されている¹⁾。しかし、整備完了後の駅前広場では一過性のイベントが多く、持続的な利活用に結びつかない事例も少なくない。また、駅前広場の魅力が市民に十分に認識されておらず、整備後の公共空間が日常的に活用されていないケースも散見される。

本研究の対象地であるJR柳ヶ浦駅(大分県宇佐市)は市の玄関口として、駅のリニューアルおよび駅前広場新設から成る公共空間整備が進められてきた。整備過程では、市民ワークショップ(以下、WS)やモノづくりワークショップを通じて、市民参画の場を設けてきたが、公共空間整備に携わる市民は一部に留まっており、広場の利活用促進にはさらなる働きかけが求められている。

そこで本研究では、筆者自身が整備段階から関わっているJR柳ヶ浦駅周辺整備事業を対象に、新設駅前広場の持続的な利活用の促進を目的とする。駅利用者側と管理者側の両面から駅前広場の現状と課題を明らかにし、今後の駅前広場の持続的な利活用に向けた方策を検討する。

2. 研究対象事業の概要

本研究の対象地であるJR柳ヶ浦駅(大分県宇佐市)は、宇佐市の玄関口として位置づけられ、通勤・通学や地域交通の要所として利用されており、乗降客数は1060人/日である。特に柳ヶ浦高校の生徒による通学利用が多く、整備前の駅前ロータリーでは列車の到着に合わせて送迎車や歩行者が錯綜し、交通環境の課題が顕在化していた。また、駅舎の老朽化も進んでおり、地域住民からはリニューアルを求める声が多く寄せられていた。こうした状況を受けて、



写真1：駅前広場の様子



写真2：待合室の様子

宇佐市では、「“安全に集い・安心して憩い・地域を想う”まちの結び目の創出」をコンセプトに、基本計画を2016(平成28)年度に策定、2018(平成30)年度からJR柳ヶ浦駅周辺整備事業の取組みを始めた²⁾。2021(令和3)年度には駅前広場の整備に着手し、憩いの広場や公共交通ロータリーを含む駅前空間の整備が進められた(写真1、写真2)。2024(令和6)年3月23日には整備完了を記念して「JR柳ヶ浦駅 リニューアル記念イベント(以下、記念イベント)」が開催され、地域における新たな公共空間の誕生が広く周知された。また、ハード整備に加え、基本構想策定当初から、地域住民の参画を重視した取組みが行われ、地元の児童や生徒を含む幅広い層に参画の機会を提供してきた。

3. 利用者および管理者に対する調査方法

本研究では、整備事業における市民や駅利用者が抱く空間の印象を把握するため、アンケート調査を実施した。また、管理者の運営実態および利活用の現状を把握するため、ヒアリング調査を実施した。

(1) 駅利用者に対する調査概要

アンケート調査は、駅前広場竣工直後の「整備完了期」と、竣工後数か月が経過した「整備供用期」の2つの期間に分けて実施した。本アンケートでは、空間評価の観点として「安全性」、「利便性」、「居心地」、「賑わい」の4つの指標を設定した。これらは、国土交通省が提唱する「まちなかの居心地の良さを測る指標」を参考に³⁾、筆者独自で設定した。この4つの指標に加えて、整備完了期では、駅利用状況や駅舎改修・駅前広場整備に関する印象・ニーズ、まちづくり参加状況等、選択式11問および自由記述1問の計12問で構成した。整備供用期では、駅前広場に関する感想・意見を問う質問を加えた選択式10問および自由記述2問の計12問で構成した。なお、本アンケート調査は、宇佐市のJR柳ヶ浦駅周辺整備事業評価の一環として、宇佐市都市計画課と協働したものである。具体的な質問項目としては、「以前のJR柳ヶ浦駅と比べてリニューアル後の柳ヶ浦駅はいかがですか？(以下、質問①)」と設定し、「1.とても良い」、「2.良い」、「3.どちらでもない」、「4.あまり良くない」、「5.良くない」の5段階で評価する形式とした。

整備完了期は、記念イベントが開催された2024

年3月23日に対面でアンケート用紙を配布・回収し、イベント参加者を対象に計76件の回答を得た。整備供用期では、帰省や観光客を見込んだ2024年8月16日、イベント参加者を見込んだ2024年10月20日、日常的な通勤・通学者を見込んだ2024年10月21日の3日間で実施し、計283件の回答を得た。

(2) 管理者に対する調査概要

ヒアリング調査は、JR柳ヶ浦駅総合案内所を運営するOneばうんど合同会社を対象に、2025年7月11日に実施した。同社は宇佐市が設置した総合案内所の管理・運営業務を委託されており、駅前広場および駅舎の利活用を担う中心的な民間主体である。

4. 利用者の空間評価結果および考察

本章では、紙面の都合上設問①のみの結果を示す。整備完了期での4つの評価結果を図1に、整備供用期での4つの評価結果を図2に示す。

(1) 「整備完了期」での評価分析

図1をみると、「安全性」では「1.とても良い」「2.良い」と回答した人が71名（93.4%）、「利便性」では73名（96.1%）、「居心地」では74名（97.4%）と、いずれも90%を超える高評価であった。一方、「賑わい」では59名（77.6%）と他の項目よりやや低いが、全体的に整備直後の駅前空間が安全で快適に利用できる場として肯定的に捉えられていることがうかがえる。

(2) 「整備供用期」での評価分析

図2をみると「安全性」では「1.とても良い」「2.良い」と回答した人が245名（86.6%）、「利便性」では243名（85.9%）、「居心地」では277名（97.9%）といずれも80%以上の高評価を維持しており、整備後数か月を経過しても空間の快適性が保たれていることが分かる。一方、「賑わい」では163名（57.6%）と他の項目に比べて評価が低かった。

(3) 2つの期間での比較分析および考察

整備完了期と整備供用期を比較すると、「安全性」、「利便性」、「居心地」の3つの観点については両期間ともに肯定的な印象が持たれており、整備された駅前空間が安心して快適に利用できる場として認識されていると考えられる。

一方、「賑わい」に関しては、整備完了期では高評価だったが、整備供用期には高評価が20%程度低下しており、時期による評価の差が顕著にみられた。これは、整備完了期でのアンケート対象者が完成記念イベントの参加者に限定されていたことから、普段の駅前空間ではなく、非日常的な状況下での印象を高めた可能性があるといえる。これに対し、整備供用期では日常的な利用状況が反映され、賑わいの評価が相対的に低下したと考えられる。そのため、駅前広場の整備によって安全性や快適性は持続的

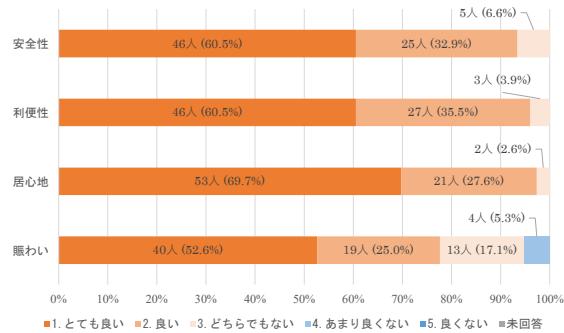


図1：整備完了期での4つの空間評価分布

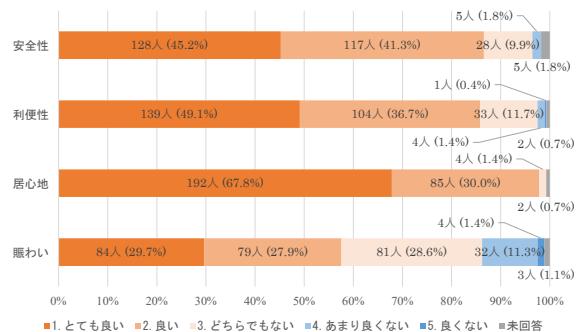


図2：整備供用期での4つの空間評価分布

に向かっているが、賑わいの形成には不十分であると考えられる。

5. 管理者の実態調査結果および考察

ヒアリング調査では、業務内容、イベント企画や運営体制、行政との連携および民間委託の課題等幅広い実務的知見が得られた。この結果から、駅前広場の利活用促進には、物理的な空間整備に加え、運営体制の継続性と地域に根差した民間主体の関与が不可欠であり、業務委託の前段階で行政と民間との交流を深めることが、駅前広場の持続的な活用に向けた重要な要素であるといえる。

6. 結論および今後の展望

本研究では、アンケート調査およびヒアリング調査により駅前広場の空間評価や利活用の実態を明らかにした。発表時には、調査結果の分析を深め、新設駅前広場の利活用を促す施策を検討・提案する。

謝辞：本研究を進めるに当たり、大分県宇佐市役所都市計画課の皆様、合同会社アトリエ T-Plus 建築・地域計画工房辻様、Oneばうんど合同会社高坂様に多大なるご協力を頂きました。記して謝意を表します。

参考文献

- 国土交通省、駅まち再構築事例集、
<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001352055.pdf>
(最終閲覧 2025. 10. 15)
- 宇佐市、JR柳ヶ浦駅周辺整備の取り組み、
<https://www.city.usa.oita.jp/sougo/soshiki/14/toshibekaku/toshibisetuseibi/2580.html>
(最終閲覧 2025. 10. 15)
- 国土交通省、まちなかの居心地の良さを測る指標、
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000081.html
(最終閲覧 2025. 10. 15)